

選ぶ 地域の未来

コメ需要減・TPP・後継者難

地方の有権者は農業を巡る候補者の主張に注目している
(2日午前、福島県いわき市)



「農業の方向性示して」

攻めるか、守るか。岐路に立たされている稲作農家は候補者、政党の主張に真剣な目を注ぐ。国内のコメ需要の落ち込みや生産人口の高齢化に加え、関東や東北などでは3年連続の豊作となりコメの価格が大幅に下落。厳しい状況のなか、海外市場に商機を求めて農政の改革を訴える声が高まる一方、次世代への継承のため手厚い支援を求める意見も根強い。

「安くておいしい。孫がたくさん食べるから助かる」。東京都荒川区のスーパーで買い物中の女性会社員(56)は笑顔を見せた。この店では千葉県産コシヒカリ5kgを1780円で「値下げ断行品」として販売。担当者によると、2014年産米の店頭価格は13年産よりも2〜3割安いという。

農林水産省によると、関東、東北、北海道の14年産米の作況は「平年並み以上」で、3年連続の豊作となった。東京都台東区の米店経営、小林健

新米の店頭価格は下落している(東京都荒川区)



志さん(30)は「消費の落ち込みに加え、卸売業者には昨年産米が残っており、新米の価格が下がっている」と話す。生産者への打撃は大きい。9月末に約20万粒の水田の収穫を終えた千葉県山武市の専業農家、小高和信さん(53)は「出来の良いい米がたくさん売れず、赤字が膨らむだけ」と肩を落とす。

地元のア山武郡市によると、農協が生産者から集荷する際に払う概算金(60kg当たり)は今年、コシヒカリで例年より3千円ほど低い水準の9千円程度という。小高さんは「こんな安いのは初めて。今回の選挙では米価安定に本気で取り組む政治家に票を投じた」と訴える。

国は18年に減反(生産調整)制度を廃止し、「行政に頼らなくてもコメの需要に応じた生産ができる状況になるように取り組む」とする方針を決め

ている。

環太平洋経済連携協定(TPP)加入をにらみ、自らの創意工夫で海外へのブランド米の輸出を狙う農家も出ている。低農薬で大粒のブランド米「龍の瞳」の生産で注目を集める岐阜県下呂市の今井隆さん(59)は「担い手不足のコメ作りは10年で立ち行かなくなる。日本の農業をどう導くのか、政治がはっきりと方向性を打ち出すべきだ」と注文をつける。

今井さんは海外で顧客開拓を進めようと、3日に商談のため香港に渡る。「日本のおいしいコメを食べてもらおうチャンスだ。味や安全性で差別化し、世界の消費者から選ばれるものを作ることが大切だ」と強調する。